

一般国道42号  
くまの おわせ  
熊野尾鷲道路(Ⅱ期)  
(道路事業)

説明資料

平成28年9月30日

中部地方整備局  
紀勢国道事務所

# 目 次

くまのおわせ	
1. 一般国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の事業概要	
(1)事業目的 .....	P 1
(2)計画概要 .....	P 2
2. 評価の視点	
(1)事業の必要性等に関する視点 .....	P 3
①災害に強い道路機能の確保 .....	P 3
②救急医療活動の支援 .....	P 4
③ストック効果事例(観光振興およびスポーツ交流の支援) .....	P 5
④ストック効果事例(成長産業の支援) .....	P 6
3. 事業の進捗及び見込みの視点 .....	P 7
尾鷲北IC～尾鷲南ICの事業進捗状況 .....	P 8
4. 費用対効果	
感度分析(変動要因:交通量)について .....	P 9
3便益による事業の投資効果 .....	P 10
5. 代替案立案等の可能性の視点 .....	P 11
6. 県・政令市への意見聴取結果 .....	P 11
7. 対応方針(原案) .....	P 11

# 1. 一般国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の事業概要

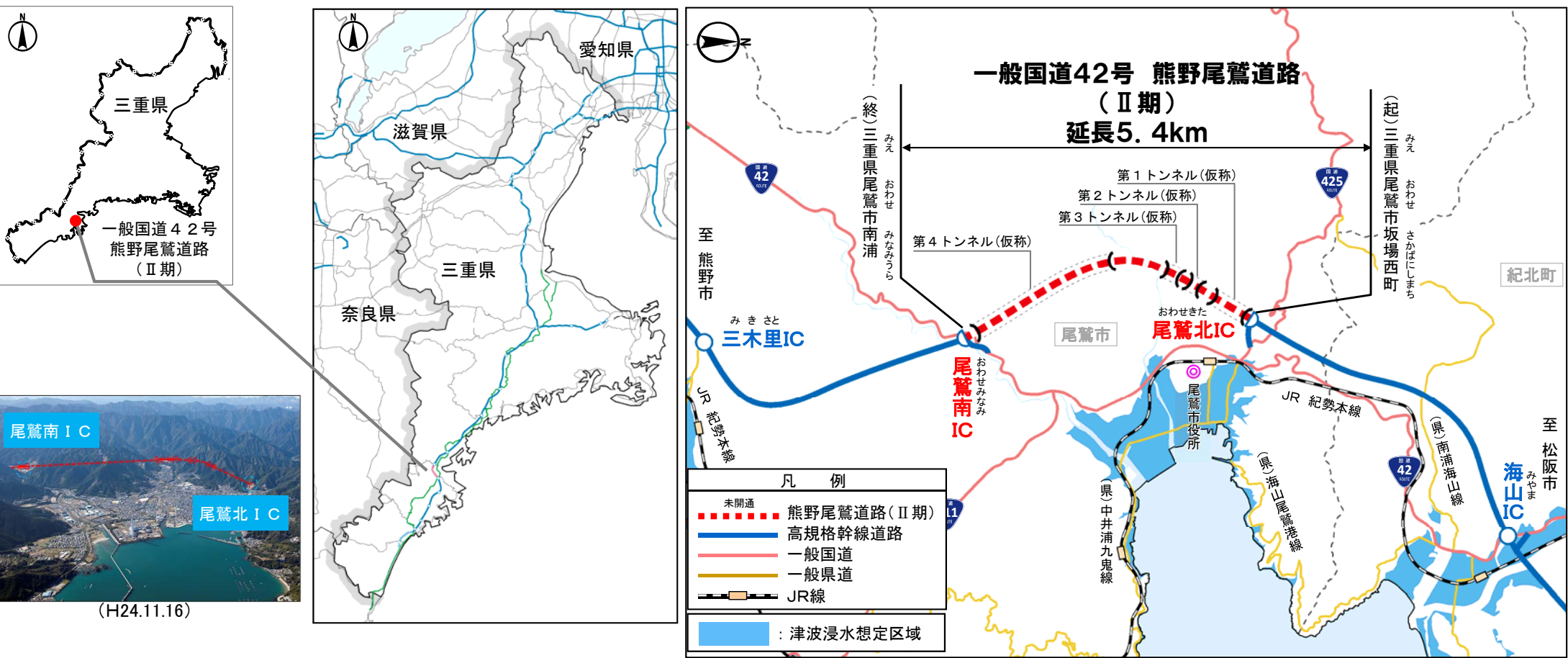
## (1) 事業目的

一般国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)は、三重県尾鷲市坂場西町から尾鷲市南浦に至る延長5.4kmの自動車専用道路で近畿自動車道紀勢線と一体となり高速道路ネットワークを形成する道路です。

並行する一般国道42号では、東海・東南海地震等の大規模地震時における緊急輸送道路の確保、高次救急医療施設へのアクセス等の課題があります。

本事業は、こうした課題解決のために災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援等を目的に整備を進めています。

## 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の全体位置図

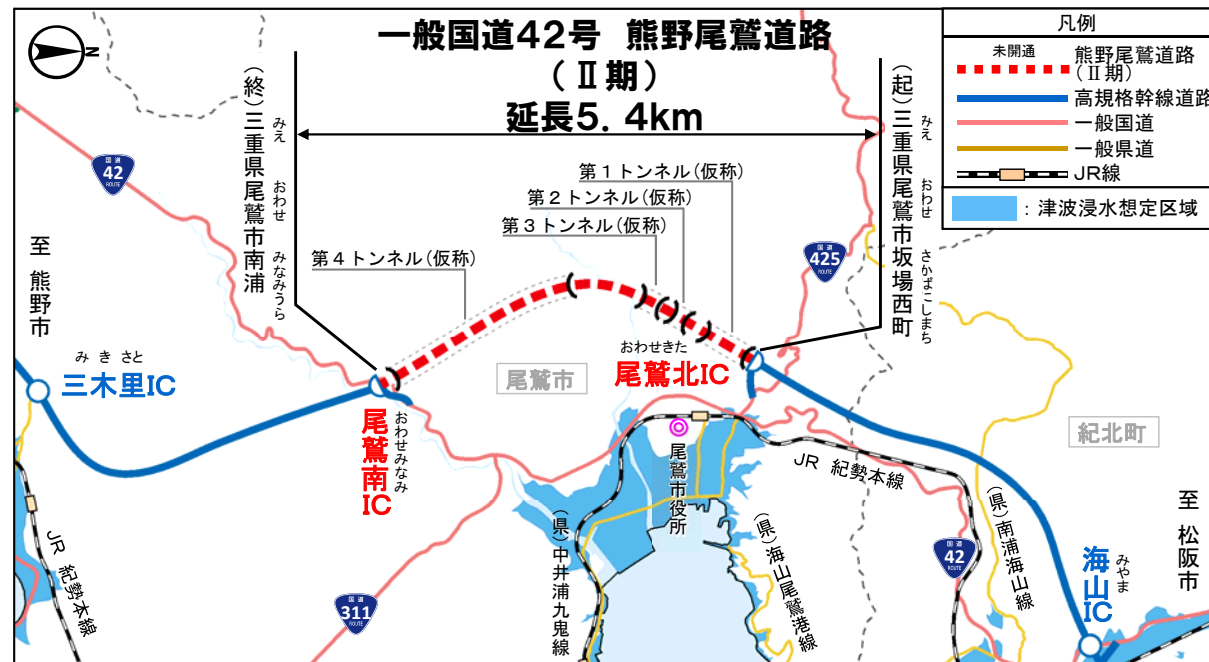


# 1. 一般国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の事業概要

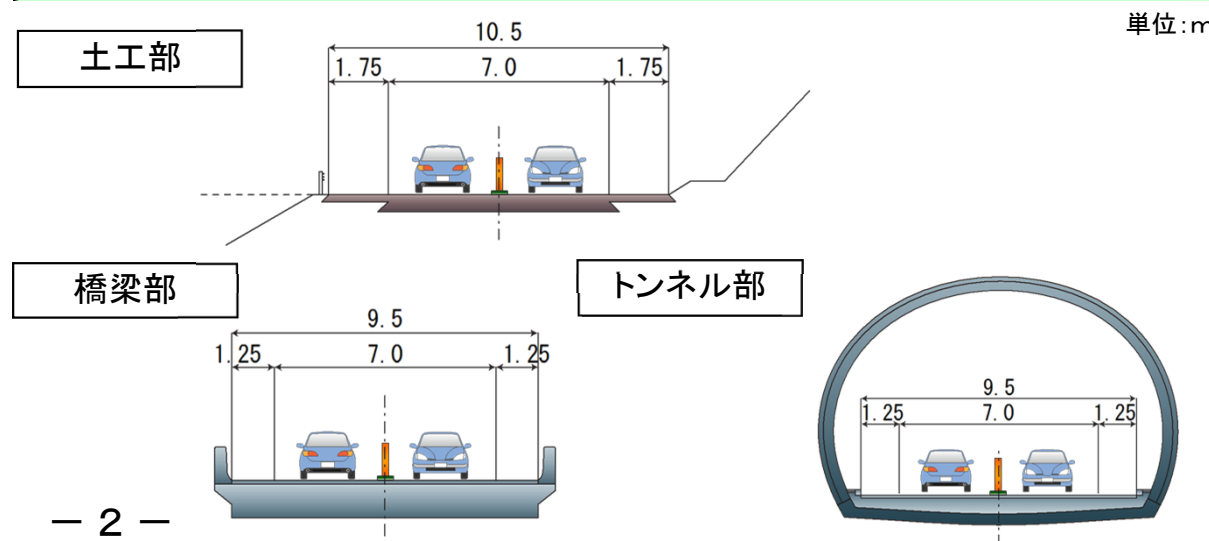
## (2) 計画概要

■平成24年度に事業化し、事業を推進しています。

事業名	一般国道42号 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)
道路規格	第1種第4級
設計速度	60km/h
車線数	2車線
都市計画決定	平成11年度
事業化	平成24年度
用地着手年度	平成26年度
工事着手年度	平成26年度
延長	5.4km
前回の再評価	(平成24年度新規事業採択時評価)
全体事業費	260億円



### 標準断面図



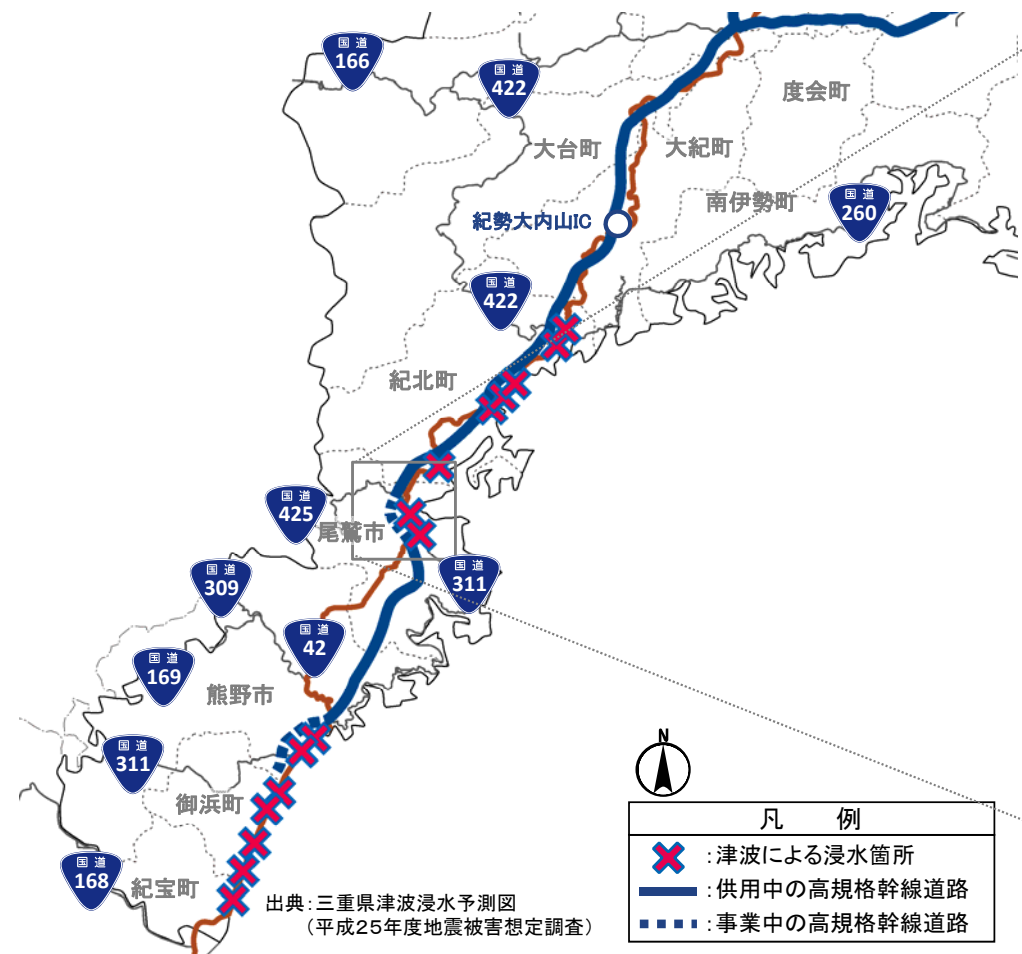
# 2. 評価の視点

## (1) 事業の必要性に関する視点

### ① 災害に強い道路機能の確保

- 現道(国道42号)は、東海・東南海地震による津波浸水区域を通過しており、2カ所で浸水が予測されています。
- 紀勢大内山IC以南には、災害時に機能する迂回路が近傍にありません。
- 東海・東南海地震による津波浸水区域を回避する第一次緊急輸送路を確保することにより、災害時における安全性・信頼性を確保出来ると見込まれます。

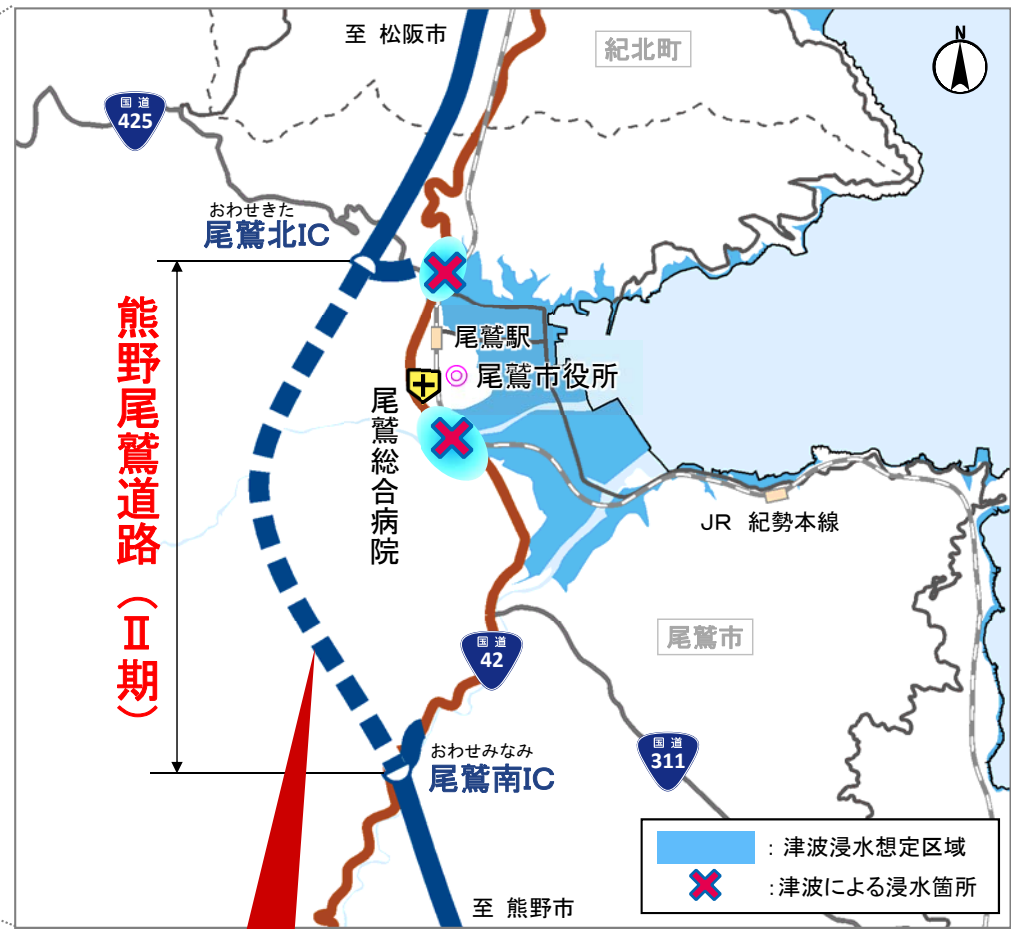
○津波による国道42号の浸水箇所



凡 例

- : 津波による浸水箇所
- : 供用中の高規格幹線道路
- : 事業中の高規格幹線道路

出典: 三重県津波浸水予測図 (平成25年度地震被害想定調査)



**津波浸水区域を回避**

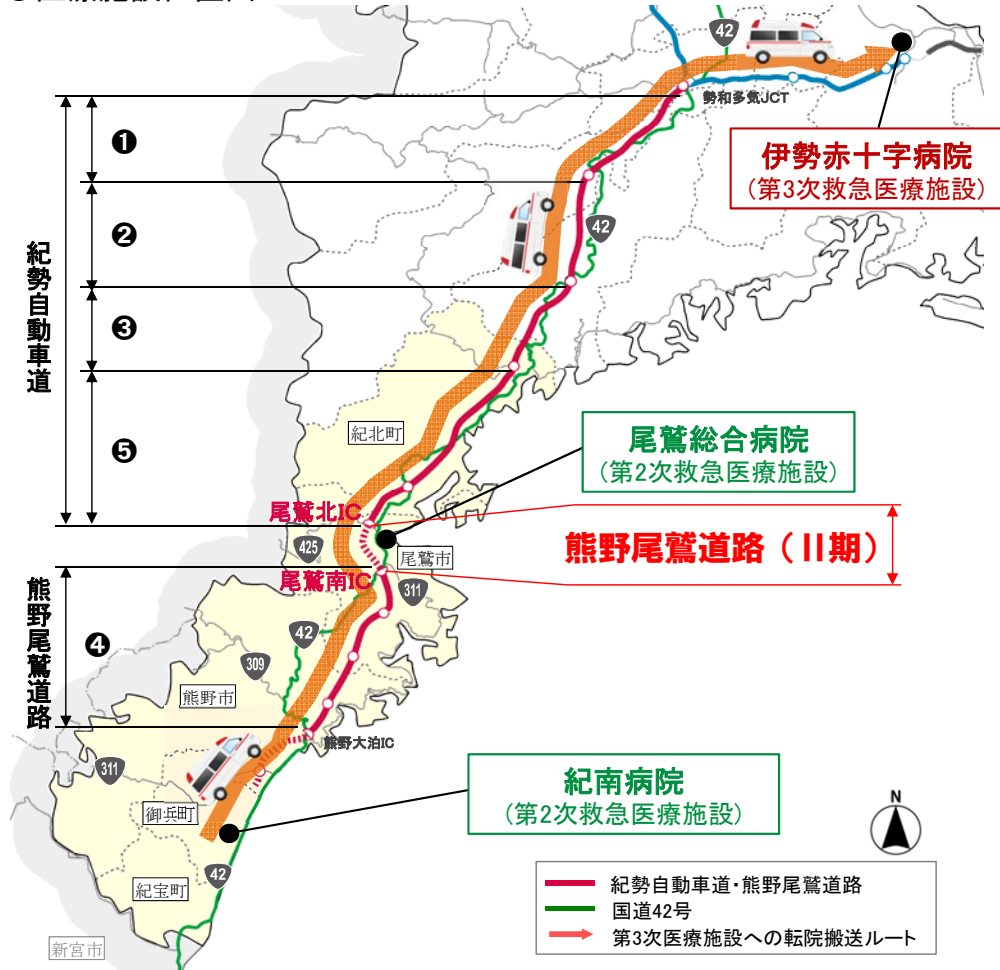
# 2. 評価の視点

## (1) 事業の必要性に関する視点

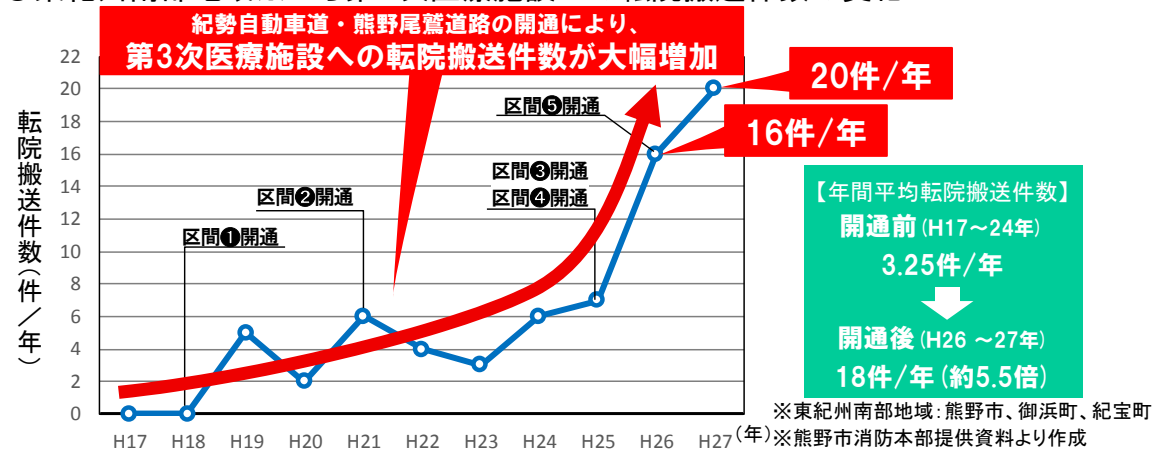
### ② 救急医療活動の支援

- 東紀州地域の2つの第2次医療施設から第3次医療施設への搬送時間が長いことから、2つの第2次医療施設が連携・分担して地域医療を担っている状況です。
- 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の開通により、第2次医療施設から第3次医療施設への転院搬送時間が短縮し、第3次医療施設への転院搬送件数が大幅に増加しています。
- 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の整備で、さらに所要時間が短縮し、救急医療活動に貢献することが期待されます。

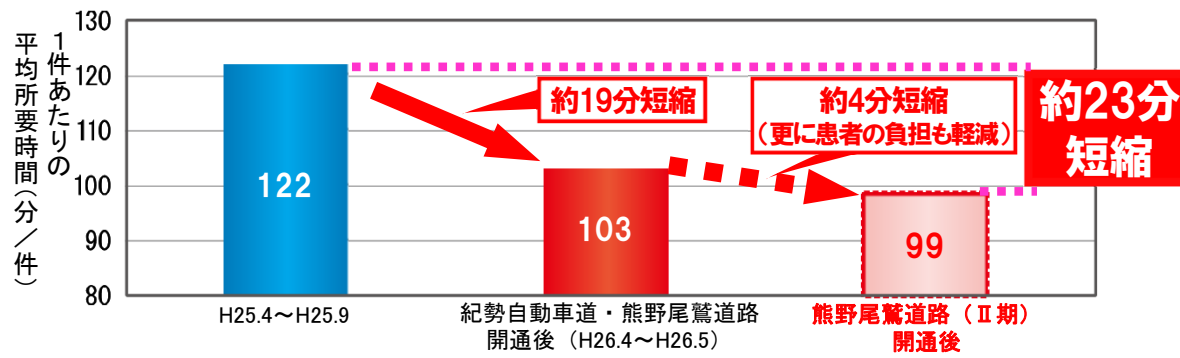
○医療施設位置図



○東紀州南部地域※から第3次医療施設への転院搬送件数の変化



○紀南病院から伊勢赤十字病院への転院搬送時間の変化



※H25.4~H25.9および紀勢自動車道・熊野尾鷲道路開通後 (H26.4~H26.5) : 熊野市消防本部提供資料より作成  
 ※熊野尾鷲道路(Ⅱ期)開通後:H22センサス調査結果をもとに算出した現道利用時の所要時間と整備区間を設計速度で算出した所要時間の差から算出

# 2. 評価の視点

## (1) 事業の必要性に関する視点

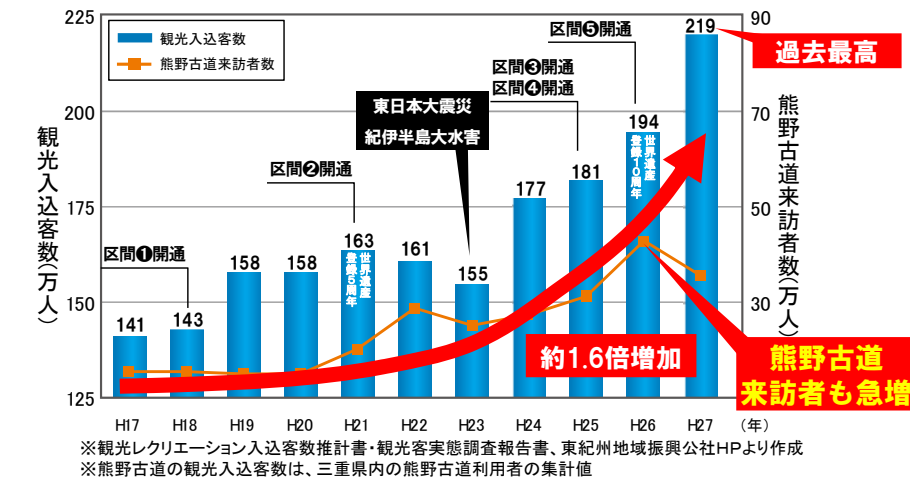
### ③ストック効果事例：観光振興およびスポーツ交流の支援

■東紀州地域には、世界遺産熊野古道などの観光資源があり、高速道路の延伸と熊野市では宿泊・観光施設の充実との相乗効果で、観光客入込客数が増加しており、更なる延伸で観光客・宿泊ニーズの増加が見込まれます。

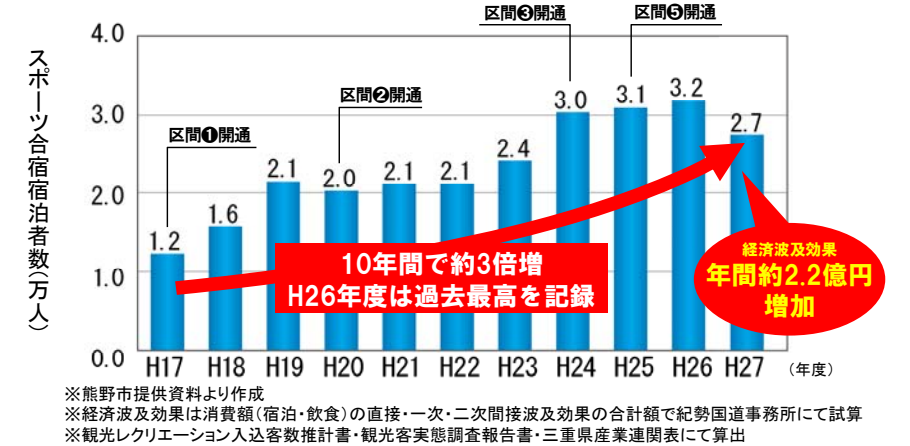
■また、平成33年に開催される全国的な国体を契機に、熊野市の温暖な気候や設備の充実など地域の高いポテンシャルが認知され、さらなるスポーツ合宿宿泊数など交流産業の拡大が期待されます。



### ○東紀州地域と世界遺産熊野古道の観光入込客数の変化



### ○熊野市のスポーツ合宿宿泊者数の変化



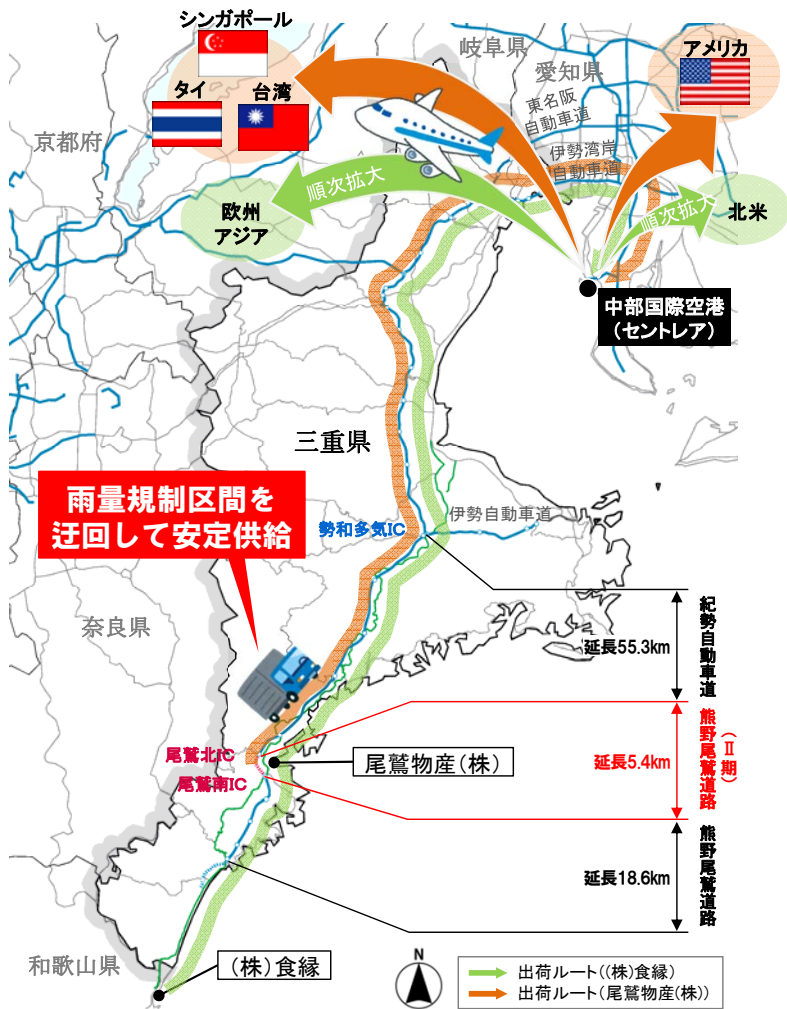
# 2. 評価の視点

## (1) 事業の必要性に関する視点

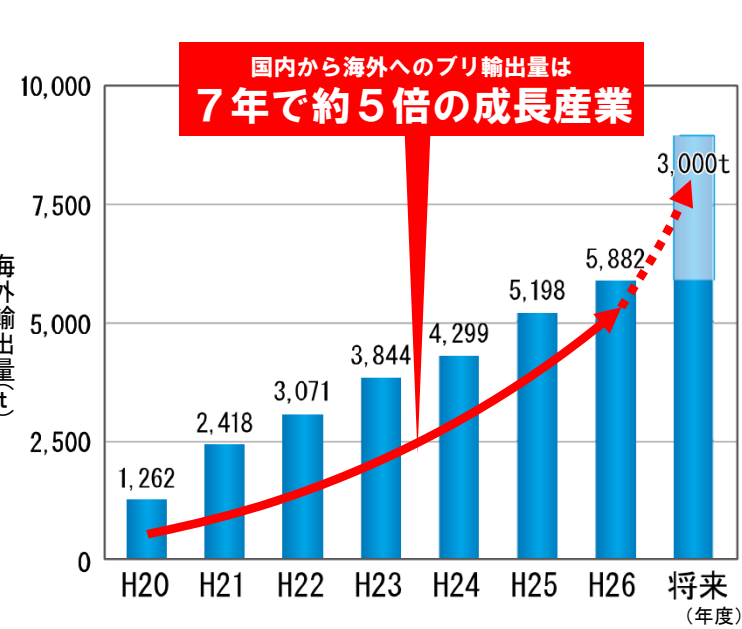
### ④ストック効果事例: 成長産業の支援

- 我が国におけるブリの輸出量は、7年間で約5倍の成長産業となっています。
- 安定供給ルートの実現、民間投資の拡大とともに、高速道路が養殖ブリのブランド化や更なる海外への販路拡大など、地域産業活動を支援します。

### ○工場から海外への出荷ルート



### ブリ(冷凍)の海外輸出量の推移



### 出荷拡大に向け民間投資が拡大



国内最大級の水産物加工工場が平成27年12月に新宮市に竣工しました。養殖ブリの海外輸出を行うにあたり、空港・港までの輸送手段である高速道路を挙げてほしいと思います。



※紀勢国道事務所・紀宝町・新宮市によるヒアリング調査結果より作成



# 3. 事業の進捗及び見込みの視点

**事業の進捗の見込み状況**

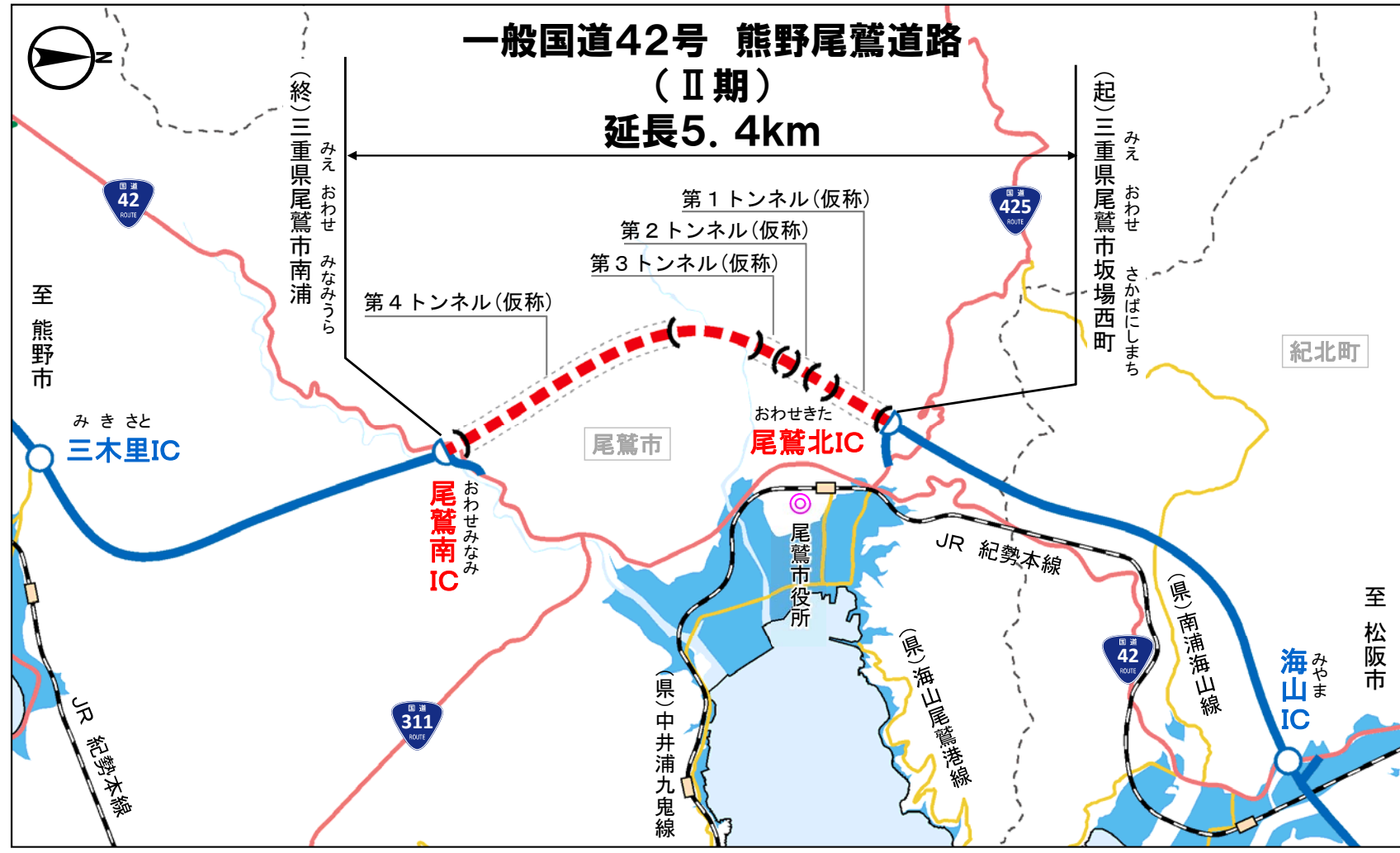
■平成24年度より事業着手しており、早期開通に向けて工事を推進します。



凡 例

- 未開通 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)
- 高速道路・高規格幹線道路
- 一般国道
- 一般県道
- JR線
- 津波浸水想定区域

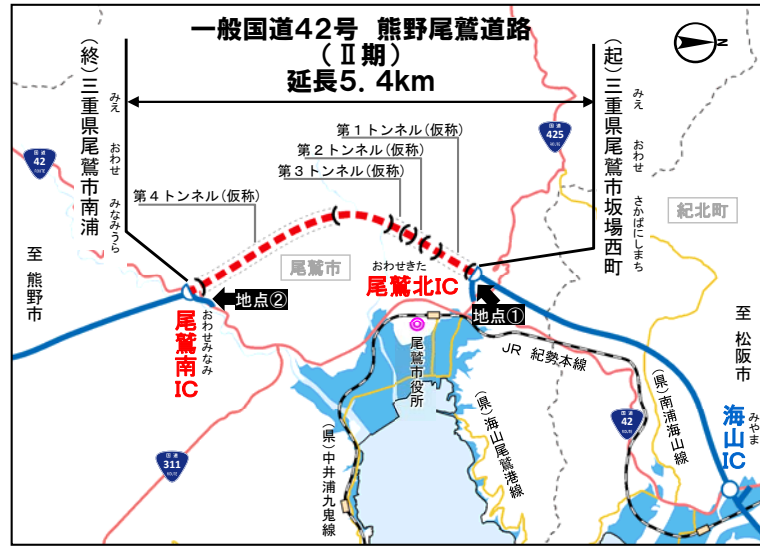
区間	尾鷲北IC～尾鷲南IC
備考	【用地取得率】 100% 【事業進捗率】 33% (平成27年度末)



全体位置図

# 3. 事業の進捗及び見込みの視点

## 尾鷲北IC～尾鷲南ICの事業進捗状況



[ 工事進捗状況: 地点① ] 尾鷲北IC付近から第1トンネルを望む



平成26年8月27日撮影



地点①【施工中】

平成28年4月14日撮影

区間	尾鷲北IC～尾鷲南IC
事業の進捗状況	【工事】H26年度より工事着手し、今年度も引き続き改良・トンネル工事を推進

[ 工事進捗状況: 地点② ] 尾鷲南IC付近を望む



平成27年9月17日撮影



地点②【施工中】

平成28年3月20日撮影

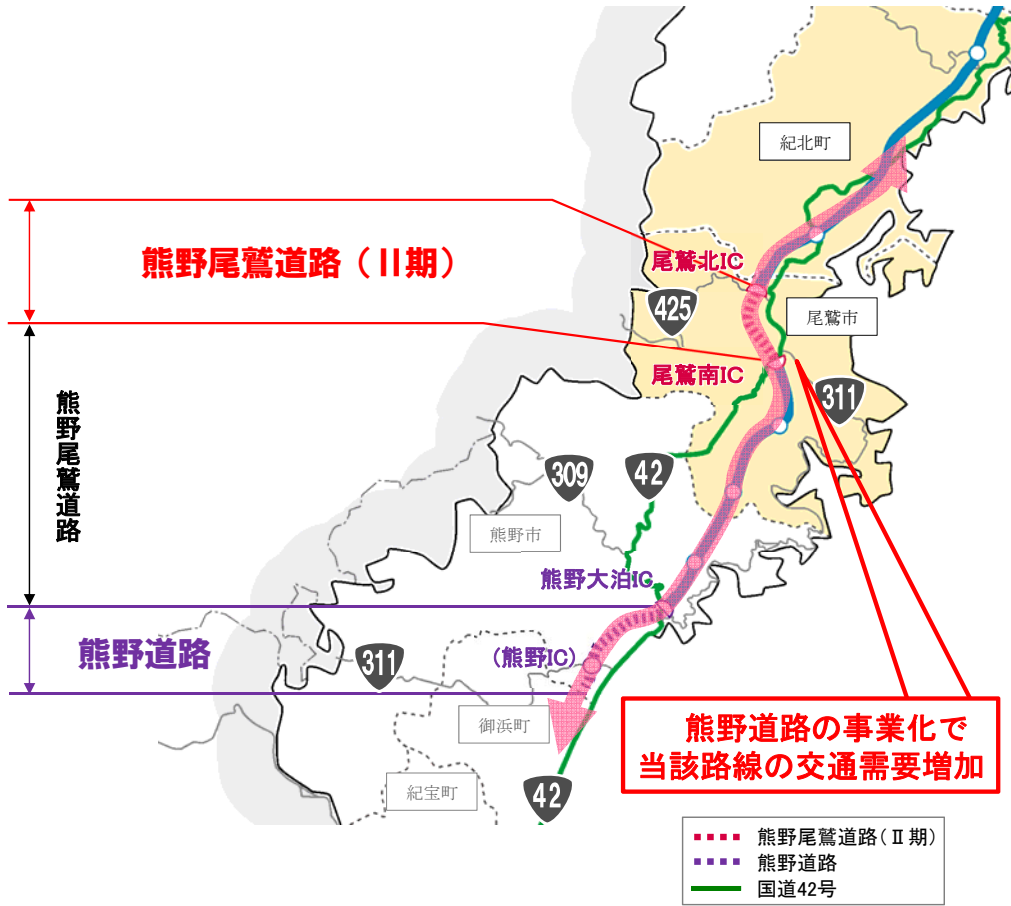
# 4. 費用対効果

## 感度分析(変動要因:交通量)について

1. 0未満であった新規事業採択時における交通量-10%での感度分析結果が、1. 0以上に増加

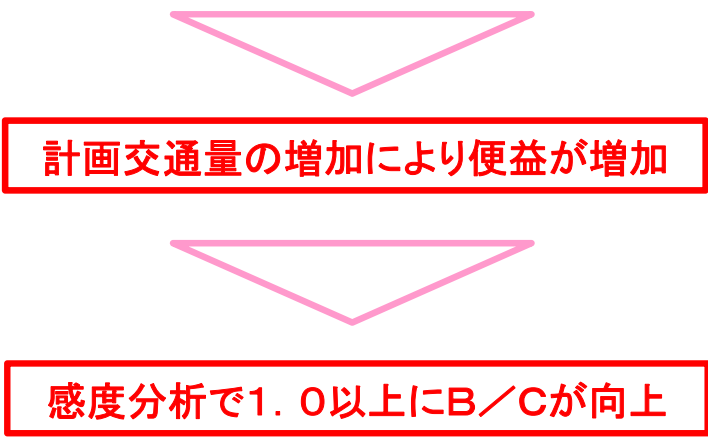
- 一体的に整備を進める熊野道路が、平成26年度新規に事業採択され、当該路線の需要がさらに増加
- 需要の増加に伴い計画交通量が増加したため、便益が増加し、B/Cが向上

○熊野道路の事業化による交通量増加



○計画交通量と費用対効果の感度分析結果の変化

	計画交通量 (台/日)	感度分析結果 【交通量-10%】
新規採択時評価時	5,700	0.93
今回評価時	6,100	1.04



# 4. 費用対効果

## 3便益による事業の投資効果

○費用便益分析(B/C)について

$$\diamond B/C(\text{事業全体}) = \frac{\text{走行時間短縮便益} + \text{走行経費減少便益} + \text{交通事故減少便益}}{\text{事業費} + \text{維持管理費}}$$

**【事業全体】**

事業区間	便益(億円)				費用(億円)			B/C	前回評価時 B/C
	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	計	事業費	維持管理費	計		
くまのおわせ 熊野尾鷲道路 (Ⅱ期)	244	75	17	337	237	20	257	1.3	1.2

**【残事業】**

事業区間	便益(億円)				費用(億円)			B/C	前回評価時 B/C
	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	計	事業費	維持管理費	計		
くまのおわせ 熊野尾鷲道路 (Ⅱ期)	244	75	17	337	113	20	132	2.5	—

※1 平成22年8月に公表した「将来交通需要推計の改善について」にて検討することになっていた推計手法の改善(第二段階)を反映した将来OD表に基づきB/Cを算出。  
 ※2 残事業のB/C算出にあたっては、未整備区間において、事業を継続した場合に追加的に必要となる事業費の合計と、追加的に発生する便益を対象として算出した。

**【前回再評価からの変更点】**

1. H27年度事業化済道路網に変更(H23→H28)
2. 費用便益分析の基準年次を変更(H23→H28)

## 5. 代替案立案等の可能性の視点

くまのおわせ

- 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)は、地形、土地利用状況、主要幹線道路との接続などを勘案した路線計画となっており、災害に強い道路機能の確保や救急医療活動の支援など、期待される効果が大い事業で、地域の課題に大きな変化が無いことから、現計画が最も適切であると考えます。

## 6. 県・政令市への意見聴取結果

### ■三重県の意見

対応方針(原案)のとおり、事業の継続について異存はありません。

本事業は、地域住民の安全・安心に確保や広域的な交流・連携の促進を図る「新たな命の道」であり、国道42号とのダブルネットワークとして早期整備の推進をお願いいたします。

## 7. 対応方針(原案)

くまのおわせ

- 一般国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の事業を継続する。